

第2回 JICA 海外協力隊 帰国隊員社会還元表彰 受賞者決定及び表彰式の実施について



1. JICA 海外協力隊 帰国隊員社会還元表彰について

JICA では JICA 海外協力隊の事業目的の一つである「ボランティア経験の社会還元」事例を収集し好事例として紹介することで、協力隊経験者の社会還元の機運を高めると共に、より良い社会の実現を目指しています。このため、帰国後 10 年以内の JICA 海外協力隊経験者で、国内外・公私問わず社会課題の解決に取り組んでいる方を表彰する『帰国隊員社会還元表彰』を 2023 年より開始しました。2023 年度に募集を行った第 2 回目は、49 名の方が応募くださり、受賞者 6 名、次点候補者 6 名が決定しましたのでお知らせします。

ご応募くださいました皆さま、ご推薦、応募勧奨いただきました皆さまには改めて御礼を申し上げ

ます。

※次点候補者について：応募者皆さまの取り組みは全て素晴らしく、僅差の中での最終審査となりました。受賞には至りませんでした。これからの益々のご活躍を祈念し、次点候補者とさせていただきます。

2. 受賞者

アントレプレナーシップ賞	
氏名	小柳 真裕（2014年度1次隊、カンボジア、青少年活動）
取り組み名称	三輪アプローチでカンボジアの子どもたちへ充実した幼児教育を！
活動地	カンボジア
審査員 コメント	派遣中に感じた幼稚園の教育現場における教員のスキル向上と教材支援の必要性という課題にカンボジアで取り組んでいる。現地の教員向けにワークショップを実施する等、持続可能な取り組みとなるような活動も含まれている。また、デジタル教材の制作に力を入れており、リソースが限られている途上国においては非常に有効なアプローチである。これらの点に加えて、取り組み開始から数年だが、サービスを提供しているプラットフォームには既に10万人以上がアクセスするなど、社会的インパクトが大きい点を評価した。

アントレプレナーシップ賞	
氏名	栗野 泰成（2014年度2次隊、エチオピア、体育）
取り組み名称	生活困窮家庭の子どもたちが対面・ネット上で集える場づくり
活動地	東京都足立区
審査員 コメント	食料品の無料配達を通じて、地域から孤立しがちな困窮子育て家庭とつながり、地域住民や、専門機関等と連携し、既存の支援に繋げる伴走支援にも取り組んでいる。また、多くのボランティアが参加しやすい仕組みを構築している。これらの点に加えて、ノウハウを他の団体にも広げ、全国、世界で格差是正を図る取り組みを構想しており、社会的インパクトが大きい点を評価した。

地域活性化賞	
氏名	浅野 拳史（2015年度1次隊、ルワンダ、理科教育）



独立行政法人国際協力機構
青年海外協力隊事務局
人材育成課

2024年4月19日掲載、4月26日更新

取り組み名称	廃校小学校を利活用した教育環境の向上及び地域活性化ビジネス
活動地	静岡県牧之原市
審査員 コメント	廃校を行政から借り上げ、「新たな教育・人づくり・まちづくりの拠点」として地域の活性化に取り組んでいる。協力隊時代の学び「地域で活動する上では多面的に取り組むことが重要」という点を活かし、教育（外国人材への日本語教育）、農業、まちづくり等、地域住民を巻き込みながら地域と共に発展していくという点が、地域活性化のモデルとなりうると評価した。

地域活性化賞

氏名	東 恵理子（2013年度3次隊、バングラデッシュ、コミュニティ開発）
取り組み名称	乾杯が繋ぐ、地域とともに創っていく町づくり
活動地	岐阜県瑞浪市
審査員 コメント	参加型の体験コンテンツが人を動かすきっかけになるという協力隊時代の経験を活かし、地元で地域の独自性を活かした体験コンテンツとしてのクラフトビールを醸造している。クラフトビールを通じて、地域の魅力を発信、人口減少や高齢化が進む町の関係人口拡大、移住促進にも貢献している点を評価した。

ボランティア活動を通じた社会還元実践賞

氏名	江川 裕基（2017年度2次隊、ブルキナファソ、環境教育）
取り組み名称	海洋ごみMAPを活用した海洋ごみのデータ化と回収装置開発
活動地	香川県小豆島町
審査員 コメント	海洋ごみ回収装置の開発。海洋ごみMAPを活用し、地元漁師と共同して海洋ごみの回収に取り組んでいる。海洋ごみ問題の解決は世界的にも重要な課題であり、地元の漁業関係者、地域住民、行政と協力関係を築き取り組んでいる点を評価した。

多文化共生賞

氏名	香川 沙由理（2012年度3次隊、マラウイ、看護師）
----	----------------------------



独立行政法人国際協力機構
青年海外協力隊事務局
人材育成課

2024年4月19日掲載、4月26日更新

取り組み名称	多文化共生時代における成田赤十字病院の外国人患者・家族の支援活動
活動地	千葉県成田市
審査員 コメント	協力隊経験を業務に活かし、外国人患者・家族の支援、外国人患者・家族に関わる看護師の支援を行っている。院内の看護師を対象とした外国人患者に関連する情報の発信、異文化看護に関する講義を実施する等、病院関係者の模範である点を評価した。

業務を通じた社会還元実践賞

本年度該当者なし

3. 次点候補者

応募者情報	取り組み名称
保志 弘幸 静岡県藤枝市で活動 (2012年度3次隊、マラウイ、村落開発普及員)	古民家でのむかし田舎体験事業と地域活性化プロジェクトの運営
田賀 朋子 岡山県小田郡矢掛町で活動 (2014年度2次隊、セネガル、コミュニティ開発)	アフリカ布アパレルブランド (jam tun) 起業を通じてセネガル・岡山の地域づくりに挑む
穂積 翔太 (2017年度1次隊、ドミニカ共和国、コミュニティ開発)	ドミニカ共和国でのコミュニティ開発経験を活かし、栃木県の農村地域の活性化に向けた取り組み
木村 正樹 高知県高岡郡寿原町で活動 (2017年度3次隊、ベリーズ、環境教育)	林業への参入・新規事業としての取組み
小林 結花 千葉県松戸市で活動 (2016年度4次隊、ベナン、コミュニティ開発)	多文化融合で新しい価値を生み出し、途上国のイメージアップと社会的弱者支援を目指す
金野 利哉 岩手県八幡平市で活動 (2019年度2次隊、フィリピン、防災・災害対策)	誰でもスーパー救急隊 Bedside Hero の開発

4. 表彰式

受賞者より取り組み内容を発表していただき、その結果を踏まえて「大賞」を選定・発表します。表彰式開催に関する詳細情報は5月上旬頃にJICA 海外協力隊 HP にて公開予定です。JICA 海外協力隊



独立行政法人国際協力機構
青年海外協力隊事務局
人材育成課

2024年4月19日掲載、4月26日更新

に関心のある方であれば、どなたでもオンライン配信で参加可能です。皆さまのご参加をお待ちしております。

【日 程】 2024年6月7日（金）

【時 間】 表彰式 14時～16時30分（予定）

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 青年海外協力隊事務局 人材育成課 社会還元表彰担当

TEL : 03-5226-9323 E-mail: jvtpc_sinrosien6@jica.go.jp